



令和8年3月1日現在	
総世帯数	1,326世帯
総人口	2,270人
男	1,095人
女	1,175人

夏の思い出

小池町町会
鴻田 康子

孫のつぐやきが聞こえまし
た。「お囃子またやりたい！」

天神祭りのお囃子は、代表的な伝統行事です。主役は子ども達、小学生です。毎年6月中旬から10日間、天神会館



で「松本の祭囃子伝承スクール」が開かれます。それから各町会で上級生が下級生を指導して練習します。後押しはもちろん、子ども会のお父さんお母さん達です。

宵祭りは7月24日、松本市重要有形民俗文化財であり、「まつもと文化遺産」に認定されている歴史的な舞台が登場します。昔から市民に親しまれ、各町会で大切にされている舞台です。

早期舞台庫から引出され、素地や飾りつけをして子ども達が法被を羽織って集まるのを待ちます。子ども達を乗せた舞台が勢揃いする様子は圧巻です。
本祭り(25日)には神楽殿でお囃子の発表をします。たくさんの方が見守っています。子ども達はキリッとして、立派に演奏してくれます。

保護者は心配そうに見守っています。無事、演奏が終わるとホーツとした表情になります。

その次は舞台の各町会への引き回しです。子ども達は舞台上に乗り、掛け声とともに元気に演奏します。子ども達の晴々とした表情を見、元気な声を聴いて、綱を引く保護者達や梶棒を握るおじさん達が奮い立ちます。子ども達、保護者、町民が一体となってお祭りを楽しみ、盛り上げていきます。街中を引き回し、夕暮れには舞台庫に格納します。

子ども達と大人達それぞれに楽しく打ち上げをします。舞台の中も外も暑い暑い。暑い夏の日のお祭りの賑わいはぶつかき氷・アイスキャンディーと共に大切な思い出。ずっとずっと続いてほしい大切な伝統行事です。

中条東四区

中条東第四町会
丸山 一恵

中条東四区には小さな公民館があります。敷地内には公園と秋葉神社の祠と鳥居もあります。子ども達の頃は自然に集まり

鬼ごっこ、ブランコ、鉄棒すべり台、公民館の縁側ではトランプ、花札、お絵かきといろいろな遊びをしたものです。

新年会ではお母さん達がお雑煮をたくさん作ってくれました。夏のぼんぼん、青山様の後には花火をしてアイスクリームを食べました。どれも懐かしい思い出です。

かつて子ども達の笑い声で溢れていた小さな公民館は静まり返り、みんなで遊んだ遊具は撤去され、今は駐車場とごみステーションに変わりました。

毎日遊んでいた公民館に、今では年2回の秋葉神社の例祭、毎週のごみ出し、年に数回の清掃と役員会でしか行くことはありません。

その公民館で、今年のお正月、コロナ禍明け6年ぶりに新年会が開催されました。今年の中条東四区にとって特別な年です。

松本市の道路拡張工事に伴い、長年家族のようにお付き合いをしてきた数件の

お宅が引っ越しをされるからです。「新しい道路ができる」それは私たちの街が便利になる証ですが、やはり寂しさは禁じ得ません。

今年の新年会は、新しい門出を祝う送別会も兼ねていました。お膳を囲み、誰からともなく始まった思い出話は、まるで昨日の事のように鮮やかでした。久しぶりに笑い声が響き渡りました。最後は笑顔でまた、ここで会おうと約束を交わしました。またこの公民館で、再開できる日を楽しみにしています。



中条東第四町会の町内公民館

地域ケア会議を実施

今年度は「エンディングノートを作成してみよう」をテーマに、令和7年12月20日、令和8年1月10日、1月31日の全3回にわたり、延べ100名の参加により行われました。

このノートは、自分が亡くなった時、または病气や怪我で意思表示ができなくなった時などに備え、自分の意志や必要な情報を書き留めておくものです。今回は、ノートを書く上で参考となる話を講師の方々にお願しました。1回目はノートの内容、書く目的などについて、松本市社会福祉協議会の倉科歩主事に説明していただきました。参加者同士で互いの記載内容について、意見交換する時間



● 第1回 エンディングノートって何？



● 第2回 財産の相続と遺言について



● 第3回 終末期の医療とは

も設けられました。2回目は財産の相続と遺言について、司法書士の小松和茂先生に解説していただきました。様々な相続事例に関するユーモアを交えた話が印象的でした。3回目は終末期の医療について赤羽医院の赤羽康彦先生にご親族の話も例に、詳しくお話ししていただきました。

これを機に、参加者がこれまでの人生を振り返り、自身を見つめ直し、「最期をどう迎えたいのか」を整理して家族などに自分の思いを残していたいただきたいと感じました。また、赤羽先生の話にもありました。自分一人を決めずに、家族や信頼関係のある医療・介護関係者とも話し合っただけ、理想に近い終末を迎えていただきたいと思

地区の皆様へ寄り添える民生委員・児童委員会に！

会長 井上 真由巳



第二地区公民館大会議室に一人暮らしの高齢者の朗らかな笑い声が響き、話の花が咲き、皆様の笑顔があふれる。これは第二地区町会連合会と第二地区民生委員・児童委員協議会とで構成される松本市社会福祉協議会第二地区支会が主催し、年に2回開催される「ふれあい会食会」での光景です。催し物もあり、楽しくお話ししながらの会食を楽しみに心待ちにしてくださる方が多く、私たちは民生委員も温かな気持ちになる時間です。お住まいが遠い方、お体が不自由な方にはタクシーの手配もしていますので、ぜひ大勢の皆様に参加していただきたいです。2月には配食サービスを行っています。何を



お届けしたら喜んでいただけるのか、地域づくりセンターとも相談しながら決めていきます。私たちは民生委員の活動は、高齢者を中心に地域で暮らし住民の皆様へ寄り添い・見守り、必要と思われる公的な機関へお繋ぎすることです。何かお困り事などありましたら各町会の民生委員へお声がけください。最近、第一地区で赤ちゃんの誕生が多くなっています。新生児期を過ぎた頃に、「赤ちゃん訪問」をさせていただきます。赤ちゃんのかわいさに私たちが癒やされています。第二地区の住民の皆様が楽しく幸せに暮らすお手伝いができたら幸いです。

すすき川

館報のコラム「すすき川」を毎回ご覧いただき有難うございます。本コラム名は第二地区の故郷の川「すすき川」が由来です。第二地区公民館・福祉ひろばが開館した平成10年から今まで館報編集委員の皆様が寄稿で成り立ってきました。その時々思いや感じていたことが表現されており、楽しい内容が盛りだくさんです。今年度は令和元年から数えて満100年の節目を迎えます。今日の我が国は、少子高齢化の進展、感染症の脅威、気候変動や自然災害の激甚化等々、昭和期とは異なる課題を抱えています。そのなかで先人が昭和から築いてきた豊かさを土台に、これからも公民館を抛り所に皆様と昔ながらの人情を大切に日々談笑の絶えない地域にと願っています。昭和100年を契機に歴史の教訓を次世代に継承していくこと、特に戦争のない平和の歩みを続け、世代を超えた理解や共感を大切にしながら多様な価値観を共有していくことが大切です。幸せや生きがいを実感でき、希望あふれる未来を！ (早坂)